



当日は2F講堂の154の座席は、ほぼ満席で、新聞記者も2・3人取材に来てくれた。講堂へ来る途中で、各会場を見て回る人も多くいたようなので、波及効果もあったと思われる。

その他にも、模擬店、古本CD市、茶会、軽音楽部演奏会などは担当の学生が頑張ってくれたおかげで、良いものが出来た。

今の時代、娯楽やレジャーという類のものはいくらかでも存在している。歯学祭が誕生したばかりの23年前はどうだったか知らないが、学園祭文化祭をやれば無条件で人が集まってくるようなことはありえない。私自身、「近所の大学で文化祭がある」と聞いたところで、そこには「よほど魅力的な何か」がない限りは休日にわざわざ行くとは思わない。歯学部のパフォーマンスとしての歯学祭を成功させるために、歯学部が総力を上げて取り組む必要がある。もちろん、私にできることがあれば、協力は惜しまないつもりである。

歯学祭の更なる発展を期待してやまない。  
(学生実行副委員長 出口知也)

特集2

# 第23回 歯学祭は大成功

## だったのだろうか？

### 歯学祭 総括

#### 総評 学生の立場から

去る10月21日(土)、22日(日)、第23回歯学祭が開催された。4月からの半年間、4年生が中心となり、準備を進めてきたかがあり、近年盛り上がりにかけてある歯学祭としては活気あるものがあったと思う。しかし、それでも、一般客の参加は多いとは言えず、「まだまだ、これから」という感じがしたのも事実である。

私自身、全企画の総責任者となり、歯学祭を運営したが、その中で、今年度の反省点と来年度以降の改善点が、いくつか浮きぼりとなったので、そのことについて記したいと思う。

まず、歯学祭というものが、学生が楽しむイベントであり、地域社会への歯学部のアピールと位置付けられている割には、学生や大学関係者の参加が少ないということが挙げられる。「例年通りのことをやって、お茶を濁しておけばいい」みたいな雰囲気がするのが残念でならなかった。

次に、予算が乏しいという問題点がある。歯学祭の予算はおよそ120万円であるが、外部への宣伝、学生展示の体験コーナーのための材料の購入、スタンプラリーの賞品の充実などを考えると、何とかしてもう少し増やすことは出来ないかと思う。私は来年度、歯学部学友会の役員として、学校行事(運動会、歯学

祭、クラブ活動など)の予算を編成する役割につくので、その辺を改善するつもりである。

また、会場が分散(歯学部、附属病院、技工士学校、新潟大和)するため、来客の立場から見て分かりづらいということも挙げられる。歯学祭を訪れる一般客は中高年の方が多いので、広い会場を歩き回るのは大変だったであろうと思われる。個人的には、附属病院に全企画を集中させた方が良いと考えている。

前述のように課題は多くあるが、今年から改革して成功した部分もあるので、そのことに関しては来年度に継承していきたい。

まず、パンフレットを「歯学部ニュース増刊号」という形で発行した。スポンサー広告を廃止し、各企画と附属病院の紹介を充実させた。「口の中の健康」について、一般の方々に分かりやすく説明するものとして、良いものができたと思う。

22日(日)には、「開運! なんでも鑑定団」の西洋アンティーク評論家、岩崎絃昌氏によるトークショー&お宝鑑定大会を開催した。芸能人文化人による講演会は毎年行われていたが、今年は予算を増やし、集客力のある著名人をゲストとして招いた。80万以上をつぎこんだため、正直言って、「失敗しないだろうか」、「お客さんは来てくれるだろうか」と心配だった。

#### 総評 教官の立場から

「どうやっていかわからない、やっかいな負の遺産」というイメージで定着してきたように見られる。

ときたまタレント講演会などでヒットを飛ばすこともあったが、全体的には情性感を引きずり長期低落傾向を打破できずにきた。ときには、「打ちきり」を提案されることもあった。真剣に討議された結果の「打ちきり」に意義を挟むつもりはないが、ただ面倒くさいというだけで切り捨てられたのではなんともさびしいではないか。これは、「楽しいことは与えられるもの」で、「楽しみは自らの手で創作するもの」という姿勢が欠如している昨今の世間一般の状況を反映していると思えば理解できなくもない。そこで、学部当局は「歯学祭」を「オープンキャンパス」の一環として位置付け、積極的に支援する方針に定めた。今年は、さらに一歩踏み込んで、早期から実行委員会を開催して学生をリードしてきた。また、パンフレットなどの編集を学部予算に含めて完全に当局で担当することにして、学生の負担を減らすようにもした。パンフレットやポスター作成に自分の才能をぶつけようと待ち構えていた学生には申し訳なかったかもしれないが、少なくとも学生数で

使える予算については相当のゆとりができたはずである。

#### はたして今年はうまくいったのか

では、実際にどのようにおこなわれたのか、総論的に検証してみよう。各論的な部分については、「編集委員レポート」を参照していただきたい。今回このような特集記事を組むに当たって、歯学祭終了後の反省会で企画実行に携わった学生にアンケートを試みた。当初、その結果をグラフなどにまとめてビジュアル化するつもりであったが、正直言って挫折した。少々安易に考えて、アンケートの問題設定に工夫を欠いた点は反省しているが、結果的に完全な委員同士の不満のぶつけ合いの様相を呈してしまったからだ。その泥仕合を再現することが本文の意図するところではないから、詳細な引用は差し控えるが、委員長側の「黙って、言うとおりに動けばいい」という高圧的姿勢と、各チーフレベルの「もう少し話し合いと自主性の尊重が必要」という抗議の対峙的図式に集約できる。

どちらの肩を持つつもりもないが、学生間の



#### 歴史的背景と最近の取り組み姿勢

ふたむかしほど前、「歯学展」と称して市内のデパートの片隅をお借りして「無料歯科相談」をメインにしていたころは、「早く自分達の学舎で、気兼ねなくやりたいね」という悲願にも似た、目標というものがあったように思う。しかし、それもいったん実現されてしまうと、その存在意義がよく見えなくなってくるのも仕方ないことかもしれない。学生の立場から考えると、かなり以前から「歯学祭」というものが

## 第23回 歯学祭収支決算表

意志の疎通を欠いた運営は、大いに反省してもらいたいところである。あえてひとつだけアドバイスさせてもらえるなら、自分たちのスタイルや価値観にあった協調の取り方、バランスの取り方について、各自心の中でもう一度考えてもらい、卒業までの間にせめてヒントくらい見つけてもらいたい。「北風と太陽」のたとえもある。また、物事は綺麗事だけでは片付かないとしても、高潔な理念と人知れず汗をかく覚悟が大切であるという認識も必要だと思うのだが、心当たりのある諸君はいかに考えるか。

### 外部の反応は必ずしも悪くなかった

このような内部事情ではあったが、外部からの評価は必ずしも悪いものではなかった。学生たちの名譽のためにも一部抜粋して紹介しよう。ひとつは新潟日報への投稿記事からであるが、「新潟大学の歯学祭に行った。ためらいながら個人相談へ。分かりやすく、丁寧な説明にほっとし、大学病院を身近に感じた。将来は女医さんの学生さんに、歯ブラシなどのお土産をもらい、なごやかな気分。」というものであった。また、直接頂いた手紙には「プログラムは掲載内容もわかりやすく容易に理解することができました。各ページのレイアウトもとても優れ読みやすく掲載写真の質が高く見ているだけでも胸がおどるような感じがいたしました。特筆すべき商業広告が全くなく、とてもすっきりとしたパンフレットに仕上がっていました。表紙に歯学部留学生の写真を配するなど国際感覚も感じられました。スタンプラリーはスタンプをもらいながら学内を回るのとても楽しく、各展示コーナーでのDrや学生の私共への対応や熱意のこもった説明はとてもわかりやすかったです。」と書かれてあった。「お宝鑑定大会」については、多くの方々のご来場を賜りいちおう大成功であったが、このような反響は手元に届いていない。

さて、来年度の担当学生がこの特集記事を読んでどう感じてくれるだろうか。先述の投書などを励みにしてさらにステップアップしてほしいと思う。上級生や教官をせいぜい活用して、オリジナリティ溢れる歯学祭を創造してもらいたいものである。

### 技工士学校はいける

最後に、附属技工士学校の取り組み方をひとつ紹介しておこう。建前からいうと、技工士学校は歯学部と同様に歯学祭の主催者のひとりであるにもかかわらず、現実的には例年どおりの枠を踏襲していればよろしい、と言うような扱われ方に甘んじている。また、実際に彼らは非常に多忙な学生生活に追われている。しかし、時間を割いて作成した展示や模擬店とその宣伝にはオリジナリティが感じられ、「手作りのものでエンジョイするノウハウを知っている」のかもしれない。「学園祭」の原点を見たような思いがした。また、クラスのまとまりやもてなしの心遣いの大切さについても、考えさせられる機会を与えてくれたような気がする。

今後、多額のギャラを払って行うタレント講演会の是非についてたびたび議論しなければならぬことがあるだろうが、技工士学校の取り組み方もひとつの参考になるのではないかと考えた。

(教官実行委員 川瀬知之)

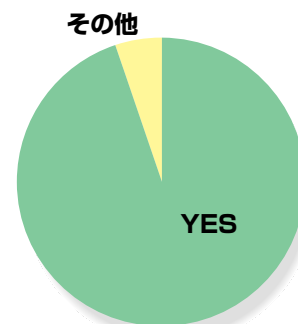
収入の部		支出の部	
前年度よりの繰越	287,210	芸能後援会 (F O B支払) (装飾代)	828,453 (815,039) ( 13,414)
新窓会	70,000	オリエンテーリング (理工) (細菌) (生理) (解剖) (参加費) (特別費)	73,739 (15,449) ( 5,437) (13,291) ( 3,442) (15,120) (21,000)
歯学部学友会	200,000	クラブ企画 (軽音楽) (茶道部) (写真部)	37,960 (14,495) (21,504) ( 1,961)
歯学部同窓会	70,000	通信費 (県内高校) (O B)	46,800 (24,000) (22,200)
県歯科医師会	50,000	広告費 (新潟日報掲載) (新潟日報折込) (衣装代)	58,417 (42,000) (15,000) ( 1,417)
学生負担	411,550	会場整備費	14,967
歯学部後援会	250,000	模擬店 (出店補助費) (衛生材料費)	46,631 (40,000) ( 6,631)
バザー収益金	22,357	無料歯科相談	58,417
模擬店(4年)	12,365	次年度へ繰越	206,413
計	1,372,482	計	1,372,482

※オリエンテーリングの特別費の代金は概算で計上。支払い後正式な次年度繰越額が判明する。

## アンケート結果

実行委員10人に聞きました  
「来年も『歯学祭』を  
続けてもらいたいですか？」

※その他の解答  
「来年の学生が考えることだから  
関係ない」



# 歯学祭 レポート

## 1. 芸能講演会

### ●企画製作

・歯学祭の予算内でできることの中で集客力があり、かつ学生も楽しめるイベントとして企画した。また、歯学祭を訪れる一般客は中高年の人が多いので、そのことも考慮した。

### ●当日

・学生2人の司会による岩崎絢昌氏のトークショーとお宝鑑定大会が行われた。  
・入場者数は概ね以下であった。  
鑑定依頼人とその家族知人・・・約30人（指定席）  
その他の見学者・・・約90人  
芸能講演会スタッフ、記者、etc.・・・約10人

2F講堂154の座席はほぼ満席であったので企画そのものは成功と  
いってよいと思う。コストが高いという問題点もあるが、中途半端  
な企画をいくつも作るよりも、しっかりしたものをひとつ作った方  
が人を呼べると思われる。

### ●支払い、その他

・FOBの口座に入金。  
・パンフレット掲載と写真撮影に関しての著作権、著作権、肖像権な  
どについては打ち合わせの段階から何回か相手側に確認している  
ので、トラブルは発生しないと思われる。

### ●芸能講演会について

・例年は学術講演会と2つの別の係でやっていたところを今年は2  
人でやらなければならなくて、大変だった。  
・講演者が来る時間は相手任せではなく、大体の目安はつけておく  
べき。接待するほうが予定が立てられない。  
・一般の方がいらしても席が空いてなくて帰ってしまった人が何人  
もいた。学生はすすんで立つべきだと思うので、入り口付近にす  
わる学生には始まる前に言うべきだと思う。今年はこちら  
が立つように言ったが、その時に、無然とした態度の人がほとん  
どだった。（一年生だったからかもしれないけど、当たり前のこ  
となのでその辺の自覚が足りない。）（実行委員）



## 2. 学術講演会

### ●前日準備に関して

今回は午前10:00に集合の後、13:00まで垂れ幕作りを主に行い  
ました。とはいえ垂れ幕の文字やイラスト、ポスターの原稿など、重  
要なところは、ほとんどが事前に4年生の鈴木さんはじめ2人の講演  
会係の方が作成して下さいましたので、私たち3年生はできあが  
った作品を糊付けしたり最終的な補強をするという仕事になりました。

午後は講義室の掃除ということでしたが、他の係の方の準備終了  
との兼ね合いが重要でした。当日、見違えるように講義室は綺麗にな  
っていましたが、これにつきましても、4年生の方が一生懸命掃除し  
てくださった御陰だと考えています。頭が下がりました。

来年への提案として、事前にタイムテーブルを作成してそれぞれ  
の時間に行う仕事を割り振り、講演会係にも分散して登校して頂く  
よう、時間の繰り合わせをつけるのはどうでしょうか。そうすれば、  
どの人の分担も一層均等になり、時間の都合も一層つけやすくなる  
のではなからうかと、思いました。

### ●学術講演会について

・今年も、一般の聴講者が5、6人しかいなかった。  
・学生の聴講者も係の人以外はほとんどいなかった。  
・係の学生の出席率は、2、3年共に半分以下。一度も顔を見なかった  
学生も多かった。  
・講演会のポスターは会場係が作るという事だったのに、当日の朝  
になっても出来ていなくて、歯学祭当日に作って貼ったので、宣伝  
効果は望めなかった。



岩崎氏のトークと、その後の鑑定については、同氏のパーソナリティーも  
あって、大変楽しかった。そして教えられることもあった。その一点は、価  
値の高い物が安く買えるはずがない(逆はありうる?)という点と、個人  
の思い出と金銭的価値は別であるという点であった。両方とも聞くまで  
もなく、知識として持っていることではあるが、同氏の体験と共に語られ  
ると、説得力があったのではないかと感じた。(わ)

### ●提案

一般の聴講者が少ないのは、学術講演があることを宣伝していないことが原因だと思ふ。歯学祭の目玉である芸能講演は宣伝するのに、学術講演会は蚊帳の外に置かれている感じがした。

たとえば、市民公開講座ということで2日間連続講座を行ってみるのはどうか。歯学部だけでなく他学部の先生にもお願いして講座を開く。今年であれば、加齢歯科の野村先生の講演とそれに関係のあるリハ科の先生やさまざまな療法士の方、実際に介護施設で診察している現場の人など、関連させた講義を2日間で流れを持ってやる。市民公開講座であれば、公民館や学校、駅、病院、市報などあらゆるところにポスターを貼って知らせることができるはず。

また、学生は半強制的に聴講させるぐらいでないと来ない。



#### 「顎関節症って何？」

内容は二人の講師により、ビデオで実際の顎関節の動きを示したり、図や写真を多く使って、顎関節症全般についてわかりやすく説明がなされたと思います。参加者の様子はノートをとっておられる方もいらして、質問もあり、皆さん真剣な態度が印象的でした。ただ、土曜日のせい、一般の方の参加が少なかったことが残念でした。関心のありそうな方に対する宣伝をもっと考える必要があると思われました。

#### 「楽しく食べて健康長寿」

高齢社会を迎えた現代にあって健康には食が基本で、それには口腔の健康が重要であるというお話しを、具体的なデータを示されながらわかりやすく説明されていました。あちらこちらで参加者がうなずいておられ、また、講演の最後に唾液分泌量チェックを実際に参加者に行ってもらったりと、演者と参加者に一体感の見られた良い講演でした。ただしこちらにも、もう少し大勢の参加者が得られるような工夫が必要と思われました。(す)

## 3. 学生展示

- ・病院の3階の小会議室はオリエンテーリングの順路から外れていて、ほとんど誰も存在すら知らない展示になっていた。
- ・本当に見せる気があるなら、茶道部が荷物置き場に使用している学部の大会議室や、オリエンテーリングの順路の廊下に並べるなど考えて欲しい。
- ・今年は全部の講座が参加したわけではなく、やるなら全部の講座がやるべき。(実行委員)



### ●要望

本当に聴講したい人が聴講できなかったという意見が多かった。4年生は係の仕事でほとんど歯学祭に参加できず、聴きたかったのに！といってくれた人が多かった。来年からは本当に聴きたい人が聴けるようにして欲しい。

### ●全体について

- ・2日間の講演で、1回目の野村先生の講演と岩崎さんの講演の間が1時間しかなかった。野村先生の講演が30分伸びたので、岩崎さんがついてから30分ほど待たせることになってしまった。講演会は延びるものだと考えてタイムスケジュールを決めて欲しかった。実際に準備をしてお客さんがどんどん入ってくる中垂れ幕を吊したり、失礼が多かった。
- ・芸能講演会の垂れ幕について、野村先生の要求した程度と講演会のチーフの鈴木が出口君から要求された程度がまったく違うものだったのは、個人的な考えからだと思う。実際に作るのは実行委員ではないのでやれるかどうかかわからないような要求をしたのだと思うが、作るものがあるときは作れるかどうか係のチーフに相談してから決めて欲しかった。
- ・係にはその係のタイムスケジュールに基づいてチーフが指示を出しているのだから、かかってに実行委員が指示を出さないで欲しい。特に、分単位で時間が迫っている講演会係では迷惑でしかなかった。チーフが出した指示と出口君が自分の考えで出した指示はぜんぜん違うので、2、3年生が困っていた。チーフの私はそんなことは出口君から聞かされていなかったのに、2、3年生に聞かれてもう一回説明し直さないといいなくなってしまった。今度からは、指示はチーフを必ず通して、チーフに任せて欲しい。
- ・今年は実行委員を通さないと野田先生の意見が聞けなかったが、直接聞かないとわからないことも多く、間に人が入るとそこで指示が変わってしまうこともあり、直接先生に聞いたり、意見できるようにするほうがいいと思う。(実行委員)

### 1-2年生からの意見

講演会後の質問は、対話つまり双方が参加する形式でよかったと思う。

### 1-2年生からの意見

- ・自分が体験できるようなものは楽しいので、もっと増やすべきだ。
- ・小児歯科はよかったが、他はただ展示するだけでなくみんなが楽しめるようなことをすれば、もっとよかった。

5年生教室配属のポスター発表会が病院会議室であったが、この場合対象者が不明確であり、ミスマッチのような気がする。例えば、一般市民の人や、高校生には、ほとんど理解されないであろうし、歯学部学生にとっては、歯学祭というお祭りモードから、勉強モードに頭を切り替えることは、かなりの努力を必要とするであろう。写真撮影を含め、3回部屋を覗いたが、いずれも写真の如く閑散としていた。(わ)

## 4. スタンプラリー

### 生理学展示

#### ●次年度にむけての改善点、問題点

- ・病院や歯学部の雰囲気から考えて飾り付けを軽くしているかもしれませんが、廊下があまりにみれしく、廊下に人がいない時などは進路の矢印があっても、その方向に進んで良いのかどうか迷ってしまう程でした。もう少し、貼り紙をして良いのではないのでしょうか。
- ・お客さんがいらした時には、きちんと挨拶をするように徹底する。やはり男の学生より女の学生の方がきちんと挨拶していたように思います。若い方は、自分達でゆっくり見たい様子でしたのでしこく声をかける必要はなかったですが、年配の方には、展示内容に関して少しお話する方が良いように思います。
- ・一つの教室に割り当てられる人数が少し多すぎると思います。
- ・前日の準備や後片付けには、現在の人数が良いのですが、それ以外の作業は一斉にできるものは少ないし、又文章の作成も4年生が中心となっているので、それが完成するまでは下の学年にも仕事を依頼できません。次年度の引き継ぎとして3年生の人数は4~5人必要だとしても、2年生の人数は1~2人くらいが良いように思う。
- ・毎回ペンなどを買っているが、前年度の購入分はないのかいつも不思議に思います。インクが使えるものはまとめて保管しておいて次年度使うというわけにはいかないでしょうか。
- ・4年生と下の学年の歯学祭に対する意識が全く異なります。各学年に下の学年からの視点で改善点をまとめてもらえば良いと思う。(実行委員)



### 細菌学展示

#### ●企画製作

「ムシ歯のできる仕組み」について一般客にも分かりやすいような展示を行った。展示物は基礎系の科目を一通り学んだ4年生が製作した。また、顕微鏡と接続したモニターで自分の口の中に生きた細菌を見ることができるコーナーを設置した。

#### ●道具

モニター付き顕微鏡やプレパラートなどは細菌学講座からお借りした。支出は文房具代とムシ歯予防の展示のために購入した歯磨剤、洗口剤などであった。

#### ●当日

4年生が中心になって、ムシ歯のできる仕組みやその予防法について一般客に簡単な説明を行った。

#### ●来年の改善点

ムシ歯についての展示は、保存科や予防歯科でもおこなっていたと思われるが、お互いにどんな展示をおこなうのか連絡をとりあって全体的に統一感のあるものにした方がよい。(実行委員)

全般的な点で言えば、来訪者の想定をもう少し考えた方がよいのではないかと。学生の父兄や親戚、これを機会に子供の歯の検診を受けたい親、あるいは将来の進路に関係するかも知れない高校生、この近所の人、などであろうか。それらの人が、半日、あるいは1日の時間を費やして歯学祭に参加し、帰路に就く際、「来年が楽しみだ」と思わせるには、どのように工夫したらよいか、考えどころであろう。例えば、オリエンテーリングでは、クイズ形式の問題を解いてもらい、終点で採点するの

はどうだろうか。大切なことは、問題の内容レベルを高くするが、各チェック点でヒントが表示されていること。もう一つは、思い切った価値のある景品を送ることである。過去の国家試験の問題から、日常生活に関連が深いものを5問程度選ぶというのも一つの選択肢かも知れない。このアイデアのミソは、相当にまじめに取り組まないと正解できないこと、しかし、正解するとかなり高価な景品がもらえることの2点である。(わ)



### 理工学展示

#### ●企画製作

- ・「義歯製作」に関する展示は技工士学校の2年生が行ったので、3F実習室では、実際に印象材やセッコウを使って、オモチャを作る体験コーナーを実施した。

#### ●道具、材料

- ・スパチュラ、ラバーボウル、パイプレーターなどの道具は理工学講座からお借りした。
- ・材料も当初の予定では、理工学実習室の在庫からいただくことになっていたが、それだけでは不足したので、第一保存からもいただいた。
- ・道具、材料は全て無料ということで、歯学祭の支出として計上するのは、文房具代とキャラクターグッズ代のみということになった。

#### ●当日

- ・一般客、学生ともに大人から子供まで、それなりに楽しんでやれたと思う。
- ・今回の歯学祭では、学生の展示を全て3Fの理工実習室で行った。全体的に活気のあるものであったが、終了後の後片付けが不十分であった。机の整理、ゴミの始末などを数人だけで行わなければならないことは、あまり良くなかった。(実行委員)





## 5. 無料歯科相談

今年度の反省・改善すべき点について

### ●時間について

・新大加齢歯科診療室においては、午前中や1時よりも前の時間に何人が来場者がいたので、できれば来年は、大和はともかく、新大の方の時間を、午前からにしてみるとよいかも感じました。

### ●アンケートについて

・去年までは、ずっと同じものを使用していたようだったが、いろいろと改善すべき点があったので、今年は多少、項目を増やしてみた。  
相談内容の項目に、「歯がグラグラする」「インプラント」「あご（関節）の雑音がする」「歯ぐきから出血する」などを加えた方が良い。  
・新大の方の会場へいらした方に、新大歯学部内への紹介状を書いた例が一つあったので、大和の方へいらした方にも紹介状を書けるように、用意しとくとよいと感じた。

### ●会場内で

・先生のところに案内する際、例えば補綴科が担当と思われる相談内容が多く、来場者を待たせる場合、他の科の先生のところが空いているのにおかしいと思われたいのために、案内係の人は、来場者に「この相談は～科のこの先生をお願いします。」と一言伝えること。  
・また、大和では、各テーブルに、例えば、「2保存科」（歯槽膿漏、歯石などの相談）というものを画用紙に書いて、来場者に見えるようにしておくとうい。

### ●器具・準備について

- ・手袋はMだけでなく、女性の先生の割合を考えてSも用意した。
- ・大和では水が使えないので、ヒビスクラブではなくヒビソフトを借りること。（直前に気付いて看護婦さんに変更していただいた。）
- ・ミラー、トレー、ピンセットのセットは、ディスクが望ましいが、コストの関係で無理だと思うので、ディスクでない時は、例えば探針100本借りる場合、2日間、2会場ということを考え、4等分して減菌して用意してもらうこと。
- ・赤ちゃん、子供のために、バスタオルを用意するとよい。

### ●当日の宣伝方法

- ・新大では、係の人数が余り、交代制だったので、手の空いている人は、病院玄関の受付の付近でビラを配り、声をかけるとよいと感じた。
- ・新聞で知って、いらした方もいたので、今年は無理だったが、市報にいがたにも掲載してもらえると（宣伝係）、来場者数が増えるであろう。
- ・大和の会場がわかりにくい場所で、しかも大和側の用意してくれた案内標識が小さいので、何か工夫が必要。
- ・古町でのビラ配りは、去年のビラが100枚強であったのに比べ、今年は500枚にした。意外とはやく配り終わってしまうので、多すぎるくらい用意してよいかも感じない。目立つようなビラを作ること、ビラ配りの時に目を引くプラカードを作ることは重要。（実行委員）



病院内と大和デパートの最上階の2会場で行われました。利用者はポツポツといった感じでしたので、もう少し気軽に相談できるような雰囲気作り、あるいは待ちの姿勢ではなく、積極的な呼び込みが必要かもしれません。ただし、大和デパートの会場では古町でプラカードを持った学生さんが宣伝してくれたそうですがあまり効果はなかったようです。したがって、デパート以外の適切な場所を探す必要があるかもしれません。相談を希望されている方は多いと思うので、せっかくの機会が有効に使われるようもっと工夫が必要と思います。（す）



## 6. お茶会

独特の緊張感を有した空間が演出され、作法のわからない参加者も丁寧に教えてもらえ、誰もがお茶会の雰囲気を体験できると、好評でした。作法について、予め紙などに説明されているとより親切であるという意見もありました。（す）



## 7. 映画上映会

最後に映画鑑賞することで、個人的には大変有意義な2日間を過ごさせてもらった。惜しいことに、宣伝力が不足していたようで、楽しみの恩恵にあずかる人が少なかった。タイトルと上映時間を工夫し、情報を流すことでもっと意義のある企画ができるのではないかと、来年に期待している。（わ）



## 8. 病院展示

各科で工夫のこらされたポスター展示がなされ、各科の特色、専門治療の内容についてうまく説明されていました。小児歯科、加齢歯科は診察室も開放し、ビデオ上映や口腔ケア用品の紹介などとても親切的な展示発表であったと思います。特に、小児歯科はたくさんの先生が出席されて常時参加者との交流がなされ、子供たちの歓声が廊下まで響くなど和やかな雰囲気一杯でした。麻酔科、矯正科の展示もわかり易いと評判でした。(す)



## 9. 宣伝広告

- ポスター、パンフレットの郵送 (9月下旬)  
小中高およそ1,000校、本学OG・OB 111診察所
- ポスターパンフレットの直接持ち込み (9月下旬)  
新潟市内とその周辺の公民館体育館およそ60か所
- 市報新潟 (9~10月のいずれかの日曜日に掲載予定であった)  
8月に掲載依頼を行ったが採用されなかった。
- ミニコミ (こまち、R116などは毎月25日頃発行)  
9月号の締め切りに間に合わなかった。
- そよかぜ (9月上旬に依頼)  
10月号で記事として掲載してもらった。  
当日も2、3人の編集員が取材に来た。
- テレビ (9月上旬にテレビ局に依頼)  
Teny新潟一番10月18日(水) 駅前伝言板 およそ90秒  
NT21いきいきワイド 特番の関係で出演できなかった。
- 県政記者クラブ (10月上旬に38社に依頼)  
FM新潟が宣伝してくれた。  
朝日新聞10月14日(土) 新潟板に無料で掲載してくれた。  
聖教新聞岩崎氏のトークショーの取材に来た。  
毎日新聞来年度の宣伝を依頼した。
- 新潟日報  
紙面10月16日(月)、夕刊2段1/4、9月中旬に依頼。  
おりこみ10月18日(水)、朝刊4750世帯、3日前までに持ち込む。  
1世帯3円10銭、来年はもっと増やすべき
- その他  
自宅生、大学関係者、各科受付の協力でパンフレットを配布した。  
外来婦長宛の方がよい



## 10. 会場案内

### ●前日までの会場整備

- ・縦1m×横3mの看板を製作し、駐車場のフェンスにとりつけた。
- ・各企画の会場への道順をポスターと矢印で案内するようにした。
- ・ポスターは縦80cm×横100cmの模造紙を、矢印は4つ切りの画用紙を用いた。
- ・一般客が分かりやすいように、各企画ごとにポスターと矢印の色分けをした。  
緑・・・スタンプラリー (ポスター3枚、矢印40枚)  
青・・・芸能講演会 (ポスター10枚)  
ピンク・・・歯科相談 (ポスター3枚、矢印10枚)  
オレンジ・・・古本CD市 (ポスター2枚)  
黄・・・茶会、学術講演会 (各10枚)

### ●当日の会場案内

- ・歯学部玄関と附属病院玄関で会場案内を行った。
- ・基本的には昨年と同じ方法で案内を行った。
- ・スタンプラリー参加者は2日間で150人程度、そのうち完走者は100人くらいであった。
- ・参加者全員に参加賞を贈った。完走者には名前と住所を書いてもらった。
- ・歯学祭全体に関するアンケートを行ったが、20人くらいしか書いてくれなかった。少ないデータではあるが、新聞の広告を見て歯学祭を知った人が多いようであった。
- ・歯学祭の建物に不慣れな人は、ときどき道に迷っているようであったので、上記の矢印の数を増やすべきであったと思われる。また、白衣がスーツを着た関係者ももっと多く巡回し、一般客の案内を行うべきであった。

### 1-2年生からの意見

- ・歯学部の特徴がもっと出せるような企画があるといいと思う。
- ・現役歯科医もいっしょになって盛り上げればよいと思う。
- ・玄関前にでかい看板などを立てて、一般通行人にももっと宣伝すればよかった。
- ・事前の広報活動が行われていなかったのでは？



### 1-2年生からの意見

- ・各スタンプ場所にもう少し人を配置していればよかったのではないかな。
- ・今ここでお祭が行われているのだ！という雰囲気が足りない。
- ・高校のときに比べて、内部の人間ばかりだったので、外部の人間も来るような学祭にしてほしい。
- ・なんとなくくまとまりにかけているような気がした。いろいろなイベントが分散しているためだと思った。



## 11. おけさ・じんく・学校町コンテスト

おけさじんく学校町大会は、それなりの盛り上がりで、華やかさが感じられた。電気を使って、音量を調節する楽器だけでなく、ギター、フルート、バイオリン等、日頃たしなんている人が発表できるようにするのも、一つの方向と思われる。食べ物に関しては、例年楽しみにしており、それなりに期待に答えてくれた。特に、技工士学校のバザーは来年も楽しみである。玄関での食べ物販売は、歩きながら食べることに抵抗のある世代にとっては、腰を掛ける場所を考えてもらいたかった。(わ)

## 12. 模擬店&バザー



今年のバザーの売上金額 22,357円

今年はなかなか品物が集まらず、歯学祭前日になっても、ばたばたしてしまった。その原因としては、2、3年のバザー係への連絡が不徹底であったこと、また係の者の意識の統一ができなかったことが、考えられます。

来年は、歯学祭のぎりぎりには医局へ向うのではなく、遅くとも1週間前から何回か足を運び、品物を集めて欲しいと思います。

学生からの品物の寄付については、各学年に告知の掲示はしてありましたが、一部の学生を除いて、全く協力が得られませんでした。それについては来年で降掲示だけでなく、バザー係から直接呼びかけることなどで解消して欲しいと思います。

また、他の人からもらった意見としては、品物の寄付を廊下などにもっと大々的に告知したほうがいい、どこに持ってくればよいかをもっとはっきりして欲しいなどは、来年への改善点として、ぜひ実現して欲しいです。

当日の仕事については、前もって2回以上連絡していたにもかかわらず、担当の時間になっても来ない学年があり、他の学年に負担が偏ってしまいました。このことについても、係の者全員への意識の徹底を来年の課題にして欲しいです。

### ●市役所への届け出

9/5に講習会

10/21、22の2週間前までに届け出用紙に記入して提出

### ●机、イス、電気の用意

机、イスは3Fの学生控え室のものを使用した。

延長コードのドラムは学務係から借りた。

電気は技工士学校から借りた。(ブレーカーの関係で900Wを4つまで)

### ●材料の購入

前日にスーパー、問屋など安いところから仕入れた。

### 当日の販売と収入支出

全品100円で販売した。

各学年とも歯学祭からの助成金(10,000円×4学年)と当日の売上げ金で黒字になった。技工士学校は学校内の予算でやりくりしたようである。

### ●来年の改善点

通行人の目を引けるように模擬店の看板がなにかがあった方が良くと思われる。

### 1-2年生からの意見

しょぼすぎる。

2週間でも何をするか決めて、道具類や材料をそろえるのは少しくつかった。また、お金の面での説明がまったくといていいほど無かった。もう少し机がほしかった。



## 13. ライヤーズ

今年も大いに盛り上がったLIARSのライブだったようです。以下が参加者の感想です。

まずスタートは、初々しくも、将来性を感じさせた1年生バンド。「1曲しかできません!」と言いながら、歌のうまさ、かわいらしさで、見事に先陣をきってくれました。

先輩バンドの交代する毎に、演奏、MCとも熟練度を増し、そのピークは2補綴の先生方で結成されたバンドの時、小話も飛び出し、会場は爆笑の渦となりました。

その後も女の子のみのどきどきしてしまうほど、かわいらしい演奏、留学生の先生方による、Asian Tasteたっぷりの演奏と、観客を飽きさせない内容で会場は一体となって盛り上がっていました。(す)





## 技工士学校のころみ

### 「歯学祭を体験してみて」展示

今回我々の展示は、「歯科技工士とは？」をテーマにして企画を進めました。一般に歯科技工士という職業はあまり知られていません。また、名前は知っていても実際どうしているのかということを知っているのかという事はあまり知られていないと思います。そこで、歯科技工物で一般的に一番よく知られているであろう全部床義歯、つまり総入れ歯を取り上げました。全部床義歯がどのようにして作られているかを製作過程順に実物を交えて展示し、歯科技工士がどのような仕事を行っているかを理解してもらおうと思いました。また、我々がどのような材料や道具を使っているのかということを知ってもらうために歯科技工における材料と道具を展示しました。歯科技工以外では、「いろいろな物を鑄造してみる」という企画を行いました。我々、技工士学校の学生20人が、金属にしてみたいものを持ちより鑄造する企画です。折り鶴や実際の花や葉、さらには本物のトンボや虫などもありました。この

企画は、こんなことやこんな物が金属にできたりするのだと少しでも印象に残ってくればいいと思いやってみました。実際、展示を見に来てくれた多くの人たちの関心を集めていたので、やってよかったと思いました。

実際に当日やってみて印象に残ったのが、体験コーナーで常温重合レジンで実際にレジンを作ることができるコーナーを設置し、それをやった子供がそれをもう一度やりたいと言ってやりに来たことです。これに対し僕は、やってよかったとうれしく思ったのと同時に、もう少しいろいろ考えて工夫しているいろいろなコーナーを作ればよかったと思いました。その他感じたことは、もっと入りやすくしてゆっくり見てもらえるような雰囲気をつくらせればよかったと思いました。これらは、来年以降に生かしてもらいたいと期待しています。

今回の展示を通し、我々の技工物で何か心

に残ってもらえればいいと思います。何かの本でこういう話を読んだことがあります。ヒンドゥー教の教えでは、この世は「創造」「保存」「破壊」の繰り返しなのだ。僕はヒンドゥー教に興味があるわけでも何でもありませんが、これは歯科技工についても同じだと思ったのです。技工物を創り出すのが創造だとしたら、それを口腔内にセットするのが保存であり、いずれは新しいものに代えなければならなくなったりする。その繰り返しなのかもしれない。しかし、その中で我々は少しでもいい物を作り出すことにより、保存の期間を長くすることができます。今回の展示を見た人が、そういう我々の誇りある職業とそれに対する思いが伝わってくれることを期待します。そして、歯科技工士というものを少しでも理解し、何らかの希望として伝わり、今回の展示が何か大いなる意味のあるものになったら幸いです。

(技工士学校2年 小比賀建介)

### 模擬店～CUP&CONE～

技工士学校の模擬店では、焼きうどん、豚汁、クレープ、ニラせんべい、チョコバナナをオール百円で売ろう!!ということに決まり、赤字覚悟で「CUP&CONE」が始まりました。アイデア商品ばかりでした。豚汁には隠し味として、日本酒を入れ、クレープは生バナナの他に、あまり知られていない、「ツナサラダ」を作りました。長野名産ニラせんべいなど意外においしく、二度お買い上げくださった方もいました。終わってみると、利益があり、ひと安心。また、休憩所には、クリストパライト・・・クリスちゃんパライトくんを中心にキャラクターをつくり気軽にに入れる空間ができ、通りがかった人は、「かわいい」と言いながら寄ってしてくれる人もいました。

来年も、新一年生には来校者が気軽に立ち寄れるような空間をつくってもらいたいです。来年になると私達は展示をやるので、学習していることを生かして、見て飽きない、楽しいものをつくっていくので、ぜひいらして下さい。

では、ひとりづつ感想を言ってください。

浅利：ニラせんべい担当でした。なかなか評判が良かったようなので、粉まみれになった甲斐があったよ。

石井：習字が好評でうれし恥ずかし。今年コンセプトは「恋はオクルージョン」ロイホで4時間雑談した甲斐がありました(死)。

井田：するってえとあれですか、ぼくらみそっかすですか!?とかなんとか・・・え？涙でねずみの絵をかいたと言うのですか??(口述)



伊藤：私は週3でローソンの焼きうどんを食べているけど、こちらの方がローソンのやつより勝っていたと思う。★バッチグー★

上野：調理場はゴチャゴチャしていますぐい状況だったけど、できあがったメニューはとってもおいしそうでおいしかった♡

菊池：クレープ担当でひたすら3日間焼いていてとても疲れたのですが、おいしそうに食べてる人を見てとてもうれしかったです。

小高：三日間、大変だったあ～!!。電話での注文が多かったのも、電話番号としては・・・マジつらかった!!

坂田：教室のかざりつけなんて小学校以来でなかなか楽しかった。

佐藤：病院の中の今まで行ったことのない所にも行けたし、出前などでいろいろな人と話もできて楽しかったです。

新里：主にしんや売歩きを担当した。出前で遠くまで行ったおかげで病院内の地理も覚えた。沢山買ってくれた小児歯科の方々ありがとう。

高木：コーヒー1杯で4時間もねばった結果、来年のコンセプトは「下剋上」に決まりました。

多田：ひさびさにみんなで楽しいことができてよかった。

仁科：注文が入るたびにうれしかった。うどんが残り、最後に豚汁の中へ入れてみんなで食べた「豚汁うどん」サイコーでした。

北條：病院の中を出前するのがたいへんだった。何度も迷子になってしまった。

松崎：1クラス20人もとも仲間良かったけど、今回で、もっとまとまれた気がします。買ってくれた方、ありがとうございました。

松嶋：ひたすら焼きうどんを作り続けました。味付けを考えるのに苦労しました。でも好評だったのでよかったです。

松本：配達に行くのがつらかった。先生いそがしいのにひきとめないで～！飲みさそわないでおくんなまし～。

三井：主に、つまみ喰い担当だった・・・(爆)ニラせんべいが意外に・・・(ニヤリ)

宮嶋：焼きうどんをずーっとつくっていた。つくっては食べていた。試食しすぎたので、とうぶん焼きうどんは食べなくていいと思った。

山浦：チョコバナナや豚汁を作ったり売り歩いた。すっごくすっごく楽しかったよ♡

以上、技工士学校一年生20人でした。また、来年のお越しをお待ちしております。

